

令和元年度鶴岡市男女共同参画推進懇談会（会議概要）

- 日 時 令和2年3月16日(月) 10時30分～12時15分
- 会 場 鶴岡市役所 別棟2号館 21号会議室
- 出席委員 伊藤眞知子委員、薄葉祐子委員、太田千香子委員、石塚正子委員、
松浦尚宏委員、矢花由紀子委員、阿部至委員、加藤静香委員、
梅津眞弓委員、遠藤綾委員、岸井綾子委員、松本健一委員、吉住和子委員
- 欠席委員 碓氷勉委員、菊地喜好委員
- 傍聴者人数 4名

1 開会

委嘱状交付

出席委員に対し、鶴岡市長が委嘱状を交付。

2 挨拶（鶴岡市長）

会長選出

鶴岡市男女共同参画推進懇談会設置要綱に基づき、各委員の互選により伊藤眞知子委員が会長に就任。

3 報告（企画部政策企画課）

1) 鶴岡市男女共同参画計画の内容及び第2次計画策定について

2) 市民意識調査結果（速報）について

質疑なし。

4 意見交換

以下、委員発言の要旨

学校教育について

- ・課題としてセクシュアル・マイノリティへの対応がある。実際の相談等はまだないようだが、声が上げられていないという可能性も考えられる。
- ・従前から、男子がリーダー、女子がサブリーダーという役割分担意識がある（複数）。
- ・性教育の重要性が増しており、人工妊娠中絶に関する実態把握・対策や、性の入り口が低年齢化する中で家庭での教育が求められている。
- ・現在、技術・家庭科の授業は両性が履修しているが、その結果家事・育児に係る技能・意識が向上しており、同一の教育を受けることの重要性が改めて認識された。
- ・PTA会長を務めた経験があり（女性）、自分の後にも女性PTA会長が就任している。
- ・本地域の中学校・高校で、女子の生徒会長が多くなってきている印象。

仕事・職場について

- ・仕事の内容は男女同一であるが、女性が持つ視点は男性とは明らかに異なっており、両性の違いが反映されることでより良いバランスとなる。
- ・女性は男性に比べて転出超過者の数が多いことの理由が知りたい。職が得られにくいなどの実情があるのか疑問がある。
- ・法律ありきで、育児休暇等の取得を労働者に強いることに対して違和感を持っており、休暇等を取りやすい環境整備が重要と考える。
- ・農業は女性の参画が特に注目されるが、女性に対して指示するのではなく、本人が主体的に関われるような形が望ましいと考えている。

家庭生活・子育て・地域活動について

- ・孫の保育にあたり、短期間で保育園（幼稚園）を複数箇所変わるということがあったものの、他地域に比べ子育てしやすい環境であると感じる。
- ・家事や子育てでは妻と夫でそれぞれ得手・不得手があり、お互いに補い合うような「おだがいさま」の気持ちが大切である。
- ・地域活動で自分の提案が受け入れられず悩む場面もあるが、女性が担い手であることがよいとの声をもらうこともあり、有難いと感じる。

DV（ドメスティック・バイオレンス）について

- ・意識調査の結果では「だれにも相談しない」割合が高かったことに驚きがあり、相談できず家庭の中で困っている方がいかに多いかが窺われる。
- ・自分がDVに該当するとの自覚が当事者に持たれにくいことが課題。特に高齢者は、これまでの慣習等から、夫婦喧嘩として認識してしまうケースが多い。
- ・DVの原因は、男性による、女性を見下す・支配するという意識から来ていることがほとんどである。

市の施策について

- ・意識調査の結果では、市の計画の具体的取組みが薄いところが低い結果となっている。
- ・女性センターは、働く女性が思いを語ることのできる場や、少人数で集まり学ぶことができる場として機能するとよい。
- ・資料では市役所の時間外勤務削減が難しいとされており、総務省などの事例を参考に各種休暇の取得が進むよう取り組んでもらいたい。
- ・個人の学ぶ機会が重要と考える。休日等に使用しにくい市の施設もあり、自主的に学ぶ機会がより確保しやすくなることが望まれる。

その他

- ・結婚により姓が変わることに疑問を持っており、法整備等が進むことを望んでいる。
- ・昨今の新型コロナウイルス感染拡大に関連して、男女共同参画の推進についてもこうした危機管理につながるものと考えているため、余裕を持った計画・制度づくりを進めてもらいたい。